

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

平成 29 年度（後期）指定公募

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」

完了報告書

災害に強いまちづくりの為に

～避難所でも安心して治療を継続する事ができるには～

申請者：末藤 栄一

所属機関：医療法人社団 藤栄会

提出年月日：平成 30 年 3 月 15 日

災害に強いまちづくりのために～避難所でも安心して治療を継続することができるには～

地域住民や事業所との震災時の振り返りを行った結果から、行政や地域だけでなく多職種との連携を強化することが必要と考え、研修会を検討するにいたった。

当初は、避難所における支援の連携などに対して連携強化を行い、ネットワークを構築していく計画を立てていたが、企画委員会を開催し話し合いを重ねるうちに、かねてから多職種連携の為にツールとして作成している、“医療と介護の連携シート”がもっと地域に浸透し活用できれば、高齢者が避難所においても、いち早く必要な内服・治療が行なうことが出来ると考える。

① 平成 29 年 3 月 22 日

「震災後の心のケアについて」という題材で、震災後の精神面の変化や後日発生しやすい症状などを中央区保健子ども課の保健師より報告があった後、浄土真宗本願寺派 覚法寺住職 大谷昭広様から、高齢者の支援も大事であるが、みなさん支援者にも心のケアが必要。周囲と協力し合い、支え合い環境を作ることが今後求められると御教授いただいた。もうすぐ震災から一年になろうという時期であり、特に住民の皆様からは『もっと時間が欲しかった』との感想も頂いている。

② 平成 29 年 7 月 12 日

連携シートの活用に当たっては、地域の薬剤師との情報交換や、今後の連携のあり方などを話し合う必要があると、ケアマネと薬剤師との研修会も開催。この時は連携のあり方を今後どうしていくかのグループワークを行い、次回の研修会開催において、薬剤師の参加が必要と協力を依頼した。

③ 平成 29 年 8 月 25 日

そもそも連携シートを貼付するお薬手帳の利用促進も必要ということから、熊本市薬剤師会の協力を得ながら、再度連携シートについての理解を確認し、どうして今お薬手帳なのかという基本的な部分を講義してもらった後、グループワークにて今後活用するにはどうすればいいかを協議してもらった。以前の研修会が震災前だったこともあるが、ほとんどの人の認識がなく、再度確認ができたことは良かったと思っている。

④ 平成 30 年 2 月 17 日

練馬区で、区と薬剤師会が協力しながら、独自の連携シートの取り組みを進めているという話を聞き、薬剤師会を通して會田氏を派遣して頂き、どのようにすすめているかを説明して頂く。最終的には行政と連携して行っていないと、なかなか浸透しないのではという意見もあり、会場に来ていた熊本市・熊本県の行政職員にも意見を求め、今後積極的にすすめて行くことを宣言し、閉会となる。

※ 各研修会の参加人数や研修風景等は表 1 を参照。

(最後に)今回“公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による研修会の開催を終了し、連携シートの活用のため、①連携シートの配布の強化②ポスターの掲示を決定した。また、配布の際に、カバーと連携シートをセットにして配布することで、高齢者の受け入れもスムーズなると考え購入にいたった。

表 1

参加者	3月22日	7月12日	8月25日	2月17日
医療機関	5		14	10
薬局	2	9	7	4
地域	54		43	29
事業所	34	13	41	31
議員	0		0	2
社協	0		0	1
他県	0		0	2
行政	0		4	3
他包括	0		0	3
包括	9	5	8	6
総数	104	27	117	91

(感想)

数年前から行っている連携シートが、今回の研修の中でいろんな職種と関わり話し合う機会を作ったことで、それぞれの職種が抱えている課題などが共有できたと思う。今まで薬剤師と連携することは、介護の状態の内服管理薬剤管理が非常に問題を抱えており、内服管理に関しては訪問看護師に依頼することが多かった。しかし、薬剤師はお薬手帳と内服薬だけで、高齢者の生活環境や他の疾患の有無などは、ほとんど情報を得られていないことで、常に在宅の情報を欲していることを聞いた。介護保険の改正などにおいて、自立支援型の地域ケア会議の中で、薬剤師の意見を求めていくことは今後必須だと考えており、通常の情報交換のツールにおいては、この連携シートが非常に高い効果があるという認識をして頂いた。実際に使用していくには時間がかかること、定期的に関係機関と研修会等を開いていく必要がある事を痛感し、今後も引き続きシートの活用の調査と改良を行っていきたいと考える。

今回研修会を開催するに当たり、助成金を交付して頂いた勇美財団様に感謝を持って、ここに報告させていただきます。

NO	氏名	所属	3/7	7/31	9/27	1/11	2/14	備考
1	齋藤 信子 (山田)	くわみず病院 地域連携室室長		○				(医)
2	末藤 久和 主催者側	すえふじ医院院長	○	○		○	○	(医)
3	石川 光男 (渡辺)	慈愛園パウラスホーム施設 長		○				(福)
4	才藤 昌史	介護福祉支援センターいず なん	○	○	○	○	○	(介護支援専門員)
5	佐田 悟	在宅ステーション水前寺 居宅介護支援事業所				○		(介護支援専門員)
6	松田 修	いずみの里ASプラン		○	○	○		(介護支援専門員)
8	染田 辰男	シルバーピア水前寺 通所リハビリ所長	○	○			○	(介護サービス)
9	三刈 博史	メリー薬局	○		○	○	○	(調剤薬局)
10	松岡 正憲	医療情報研究所アドム		○		○		(地域)
11	谷口千代子	ささえりあ水前寺	○	○	○	○	○	(包括)
12	市橋はるみ	ささえりあ水前寺	○	○	○	○	○	
13	上野 みさ	ささえりあ水前寺	○	○	○	○	○	

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

平成28年度

「医療・保健と介護・福祉の連携会」全体会

会次第

1. 日時：平成29年3月 22日（水）13：30～15：30
2. 場所： グレーシア（熊本市中央区水前寺 1-33-1）
3. 対象：自治会役員・民生委員・医療関係者・サービス事業所
居宅介護支援事業所・包括 等
4. 内容
 - (1) 開会挨拶
「連携会」委員（企画担当 ささえりあ水前寺）谷口 千代子
 - (2) 本日の流れの説明
 - (3) 講義
「震災後の心のケアについて」
 - ① 中央区保健子ども課
震災と精神面の影響について（仮）
 - ② 浄土真宗本願寺派 覚法寺住職 大谷昭広
仏教に見る心のケア
 - (4) グループワーク
「支援者として出来る高齢者の心の支援とは」
 - (5) 来年度の事業計画について
「連携会」委員（企画担当 ささえりあ水前寺）
 - (6) 閉会挨拶
「連携会」委員（企画担当 すえいじ医院）末藤 久和

平成 29 年 6 月 13 日

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
中央 5 圏域 「医療・保健と介護・福祉の連携会」
薬剤師・介護支援専門員の皆様

熊本市高齢者支援センター ささえりあ水前寺
(熊本市中央5地域包括支援センター)
センター長 谷口 千代子

薬剤師と介護支援専門員の意見交換会のご案内

梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

かねてより、「医療・保健と介護・福祉の連携会」において、研修会の参加など、皆様の御協力を頂き大変感謝しております。今年度も誰もが住みなれた自宅、地域で安心して生活ができるような環境づくりを目的とした、「ときどき入院、ずーっと自宅」をテーマとして開催する予定です。

今回、地域の薬剤師と介護支援専門員の連携について意見交換を行いたいと思い、御案内をさし上げております。それぞれの立場で、在宅における役割や連携の方法について理解を深める機会にしたいと考えておりますので、ぜひ御出席をお願いします。

以上

記

日程：平成 29 年 7 月 12 日（水）19：30～21：00

場所：熊本市体育館内 青年会館第 1 会議室

内容：薬剤師と介護支援専門員の連携について、意見交換

参加の有無を記入し、ささえりあ水前寺まで FAX して下さい
(FAX：362-0070 締め切り：7/3 送信票は不要です)

ささえりあ水前寺 行き

事業所名 { 参加 不参加 (どちらかに○を) }

お名前	お名前

「医療・保健と介護・福祉の連携会」全体会
(出水・出水南・砂取校区内)

鏡集!

～ ずっと自宅、

H29年度

連携シート
本気で始めました!

ときどき入院 ～

「医療と介護の連携シート」とは、
H24年度からささえりあ水前寺圏
域で作成したものです。昨年の熊本
地震の時も、お薬手帳に貼っていた
連携シートが活躍しました。



- 開催日時：平成29年8月25日（金）19：00～21:00頃
- 場所：ホテル 熊本テルサ テルサホール
(熊本市中央区水前寺公園28-51)

※駐車場は有料になります。公共交通機関の利用・または乗りあわせでのご来場にご協力ください。

- 内容：「医療と介護の連携シート」の効用と活用について

無くて
困った!

地域の皆さんが可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できるようにするために、医療・保健・介護・福祉の皆様と地域の皆様とで協力しながら体制を整えていくことが必要です。
その取り組みの一つとして「医療と介護の連携シート」のさらなる活用を勧めています。

持っていて
良かった!
あって
良かった!

- 参加者： 地域で生活する住民の皆様
地域で仕事をしている医療・介護・福祉の皆様

※「医療・保健と介護・福祉」の連携会とは
出水・出水南・砂取校区に居住している高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を継続出来る様、医療・保健・介護・福祉の連携を促進させ、地域包括ケアシステムを構築することを目的とし、H24年度に発足し、活動をしています。構成メンバーは地域住民・医療機関・介護保険サービス事業所等です。

参加を希望される方は、裏面の申込用紙に記入し

- ① ファックス
- ② ささえりあ職員への手渡し
- ③ 電話での御連絡

をお願いします。

「医療・保健と介護・福祉の連携会」全体会
(出水・出水南・砂取校区内)

鏡集合!

～ ずっと自宅、

H29年度

連携シート ときどき入院 ～
活用しよう!

「医療と介護の連携シート」とは、
H24年度からささえりあ水前寺圏
域で作成したものです。昨年
の熊本地震の時も、お薬手帳
に貼っていた連携シートが活躍
しました。



- 開催日時：平成30年2月17日（土）19：00～20：30頃
- 場所：熊本市青年会館 青年会館ホール（熊本市中央区出水2-7-1）
※駐車場はありますが、満車になる可能性がありますので、近くの方は公共交通機関の利用にご協力ください。
- 内容：「医療と介護の連携シート」のこれからの活用について
講演 練馬区薬剤師会理事 會田一恵 様
～練馬区における、お薬手帳を使った連携シートの活用について～
地域の皆さんが可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できるようにするために、医療・保健・介護・福祉の皆様と地域の皆様とで協力しながら体制を作っています。その取り組みの一つとして「医療と介護の連携シート」のさらなる活用に取り組んでいます。
- 参加者： 地域で生活する住民の皆様
地域で仕事をしている医療・介護・福祉の皆様

※「医療・保健と介護・福祉」の連携会とは

出水・出水南・砂取校区に居住している高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続出来る様、医療・保健・介護・福祉の連携を促進させ、地域包括ケアシステムを構築することを目的とし、H24年度に発足し、活動をしています。構成メンバーは地域住民・医療機関・介護保険サービス事業所等です。

参加を希望される方は、裏面の申込用紙に記入し

- ① ファックス
- ② ささえりあ職員への手渡し
- ③ 電話での御連絡

をお願いします。